

平成30年度予算をこう評価する

3月15日の本会議において、平成30年度一般会計予算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

我が党各議員からの意見や提案を真摯に受けとめ、区政に反映させるよう求め、賛成
自 民 党



平成30年度荒川区一般会計予算に賛成の立場で討論する。

自由民主党荒川区議会議員団は、本予算の編成にあたり、区民生活の向上、安心・安全に暮らせる荒川区を目指し、約290の事項を積極的に推進していくよう要望した。

この要望を踏まえ、区は、直面する重要課題や区民生活に的確に対応した施策に財源を重点的かつ効果的に配分する一方、内部努力の更なる徹底や事務事業全般にわたる再点検・見直しを図っている。この結果、予算規模は995億円で、前年度比4.6%の増となっているが、我が党が要望した重点施策等を推進するための新規事業やレベルアップ事業が積極的に組み入れられ、西川区長及び区当局の努力を高く評価する。

主な施策について述べると、待機児童対策に関してのあらゆる手段を講じた保育定員拡大の取り組みや保育園の環境及び保育の質の向上に取り組む区の努力、福祉関係の地域包括支援センターの機能強化や生活支援コーディネート業務の開始等の高齢者が安心して荒川区に住み続けられる環境をつくらうとする区の積極的な姿勢、安全・安心対策での避難所となる学校体育館への空調設備の設置や感震ブレーカー及び自動点灯ライトの無料配付等の区民の安全・安心に全力で取り組む強い姿勢、産業振興での区内での実践的な起業・創業支援の強化や若手従業員の合同研修会の実施等による区内中小企業の人材確保・定着支援策への取り組み等を高く評価する。

また、予算に関する特別委員会における質疑を通じて各分野の施策や事務事業に関して、具体的に確認した。

順不同に挙げると、受援応援ガイドライン等への情報発信の視点の導入、俳人金子兜太氏を偲ぶ催しの検討、スポーツ施設への観客席の整備、積極的な女性防災組織の設置、ゆいの森あらかわ来館者の把握・分析、障がい者に係る基幹相談支援センターの設置検討、私立幼稚園に対する図書購入費又は絵本代の措置、地域ケア会議における多職種連携、太田道灌ゆかりの観光資源による区の魅力発信、住宅宿泊事業法違反や違法民泊への厳格な対応、犬猫の殺処分を減らす取り組みの推進、蛍光管のリサイクル推進、隅田川テラス整備の推進、タブレットパソコンの検証等々である。

区においては、こうした我が党各議員からの意見や提案を真摯に受けとめ、是非とも区政に反映させるよう求める。

最後に、区は他の自治体以上に防災対策に取んでおり、永久水利の設置等は糸魚川大火のケースを想定して設備していることを高く評価し、討論とする。



▲地域包括支援センターでの相談の様子

区民生活の向上に一層努力するよう要望し、賛成

公 明 党



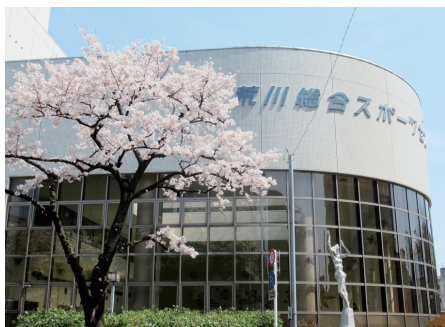
平成30年度予算は、「幸福実感都市あらかわ」の更なる実現に向け、健康・福祉や安全・安心の街づくりの充実、地域コミュニティの強化、芸術・文化・スポーツ環境等の整備等を着実に推し進めることで、「くらしの安らぎと夢を育む予算」と

して編成された。

予算編成に先立って提出した我が党の要望を踏まえ、限りある財源を重点的・効果的に配分したメリハリのあるものと受け止めている。予算内容は、地域包括支援センターの機能強化と地域包括支援システムの更なる推進、空き家バンクの創設、日帰り産後型ケア事業の新設、私立保育園の更なる拡充、区移管に向けた児童相談所の新設、魅力と輝きを増す荒川遊園のリニューアル、総合スポーツセンターの改築による環境整備等が予算化されており、我が党の主張が幅広く取り入れられた予算を高く評価する。

また、予算特別委員会では、40歳代の区民への生涯学習の積極的な推進、ゆいの森あらかわの利用促進に向けた積極的なPR、高齢者就労実態調査の実施、子どもの居場所づくり事業の更なる推進、受動喫煙防止対策の推進、民泊における様々な課題への対応を反映した荒川ルールの条例策定、学校体育館における空調設備の早期全校設置、更なる地域防災力の強化への取り組み、介護保険料の抑制に向けた今後の対応策の検討等、様々な提案や要望を行った。

これらの提案・要望を今後の予算執行に反映させ、区民生活の向上に一層努力するよう要望し、賛成討論とする。



▲荒川総合スポーツセンター

暮らし応援の予算5.6億円程度増額を決断すべきだった

共産党

一般会計予算に反対する。

反対の第一に、子どもの貧困対策である。就学援助の拡大、入学準備金の前倒しも依然として小

反対

学校での実施が遅れている。また、区で進めている児童相談所建設は、慎重な検討が必要である。第二に、高齢者対策である。感震ブレーカーと自動点灯ライトを高齢者・障害者世帯等に配布するのは歓迎するが、高齢者への入浴事業の充実はいまだに実行されていない。また、国民健康保険、後期高齢者医療保険、介護保険の保険料の値上げは一般財源を投入してもストップさせることが必要だったのではないかと。第三に、生活保護の削減計画は、貧困の拡大の連鎖を起こす。その認識が極めて不十分である。だからこそ、我が党が提出した暮らし応援の予算5.6億円程度増額を決断すべきだった。

以下、待機児童を出さない緊急対策等の検討、必要な人的配置等ができる私立保育園への支援、区立保育園の保育士確保、処遇改善、学童クラブの必要な増設計画、道路の拡張、住宅の耐震化・耐震補強の促進、家具転倒防止等の設置、備蓄等への抜本的な総合支援、特定整備道路補助92号線の区としての都への意見発信、サービス業、飲食業等を含む商業への実態を掴んだ支援策の実現、住宅リフォーム助成実施等を求める。

最後に、小中学校タブレットパソコン一人一台体制の検証・見直しを求め、反対討論とする。



▲学童クラブの様子

「区民のためにやる」という気概を示してほしい。目を奪うような進捗を期待

民進党

賛成

本予算は、「くらしの安らぎと夢を育む予算」として真に編成されているか、目を皿のようにして精査し、予算特別委員会において質疑をした。改めて、荒川遊園子どもプールのスケートボー

ドの練習場、スケートパークへの整備、ICTを活用した医療・介護包括連携システムの一元化を荒川区医師会と連携し、区主導で行うこと、発達障害の疑いのある児童・生徒に対しての所管を超えた情報共有、合理的配慮を求める。併せて、駅への図書館返却ポストの設置、3歳児眼科健診の充実を強く求める。「法定だからやる」ではなく、「区民のためにやる」という気概を示してほしい。目を奪うような進捗を期待する。

新年度が、くらしの安らぎと夢を育み、荒川区に住んでいて良かったと実感でき、区民と訪れる方にも明日が楽しみな社会となるよう、鳥の目・虫の目・魚の目の3つの目を持って、目いっぱい活動していくことを申し添え、賛成の討論とする。



▲荒川たんぽぽセンター訓練室の様子

本質から目を反らし続けた区の姿勢が反対の大きな理由の1つ

日本創新党



まず、人口流入抑制策を取ることなく、加速する過密化に泥縄式に対応する姿勢、予算付けに賛同できない。次に、外国人学校保護者補助金という国益を損ねる制度は、即刻、廃止をすべきである。長年の議論で逃げ惑うばかりで、本質から目を反らし続けた区の姿勢が反対の大きな理由の1つでもある。また、何度も繰り返し反対しているタブレットパソコン頼りの劣化した教育を進める予算になっていることも大きな問題である。「IT化の時代、皆がパソコンの原理を知らねばならない」という誤った政策から子ども達を守る認識も持たねばならない現状である。

国あつての地域であり、地域あつての国で不可分の存在である。その点が蔑ろにされた予算であ

る以上、反対とする。



▲小・中学校に導入されているタブレットパソコン

温かい地域づくりをさらに邁進するよう要望し、賛成



市民の会

区の職員は区民の方へ優しい言葉がけを行い、励ますようなつもりで接するよう求める。また、区と区民の協働という点で、区民からの意見の理由をよく考え、アドバイスを行うこと。そして、精神病患者への理解とともに、認知症患者への理解が必要である。区は職場としても再点検を求める。認知症サポーター養成講座は各職場で開催を求める。さらに、地域包括支援センターはもうひと踏ん張り認知症の方への居場所づくりを行うこと。健康寿命を延ばすという観点からは、地域のサークルへの加入やリーダーを務める効果を研究すること。最後に、ホームページを活用した情報公開、フェイスブックやツイッターの活用を求める。

以上、温かい地域づくりをさらに邁進するよう要望し、賛成とする。



▲認知症サポーター養成講座の様子